



二松学舎大学
父母会報

平成5年5月10日創刊
 令和6年3月31日発行
 (第124号)

二松学舎大学父母会

(本部・事務局)

東京都千代田区三番町6番地16
 二松学舎大学学生支援課

題字は
 故 観山貞広常吉先生書



卒業を祝す



父母会長
小平 修

桜花咲き誇る千鳥ヶ淵、青葉繁れる北の丸公園、輝くイチョウ並木の靖国神社、四季折々の風景の中、二松学舎大学を卒業される皆さんほどのような日々を過ごしたのでしょいか。一人ひとりが大切なものを手に入れ、新たな活躍の場へと旅立っていく皆さんの姿を想像すると万感の思いがこみ上げてきます。

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

皆さんの学生生活を振り返ると、スタートは順風満帆なものではありませんでした。コロナ禍で学校行事は制限され、授業はオンラインとなるなど、大変な苦労をした学年だとも思います。しかし、そのような中でも、前向きに、制限下だからこそできることがある、そんな発想を持つ

て、充実した大学生生活を送った逞しさを大変頼もしく思います。父母会としても、皆さんのがんばりをずっと見守っていました。創縁祭等の行事の際にクラブやサークルの発表を見て感動したり、成長支援型奨学金への応募作文に共感したり、「困難な状況の中でも、努力し続けてきたんだね」と役員一同うれしい気持ちになったことを思い出します。

これから皆さんは、それぞれの道に進みます。色々な場面で、悩み、迷い、時には自分がどこに向かっているのかわからなくなることもあるかと思いますが、そのような時こそ、九段下の「二本の松」のもとで過ごした日々を思い出してほしいのです。皆さんが、この学び舎で、友達や先生といっしょに奮闘し、笑い、涙した日々は色あせることなく、皆さんの中で輝き続けます。懐かしさだけではなく、「あの時は苦しかったけど、友達といっしょにがんばれた」「先生の叱咤激励のおかげで前に進めた」など、かけがえのない記憶が、皆さんを再び前へといざなってくれることでしょう。二松学舎大学の卒業生としての誇りを胸に、夢を追い続ける姿を後輩たちに示して頂けたらと願っています。

末筆となりますが、父母会活動にご理解、ご協力頂きました会員の皆様、併せて子供達を公私にわたりご指導頂きました大学関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

Contribute to the Society 社会に貢献する人材として活躍を

学校法人二松学舎 理事長 水戸英則



ご卒業誠にありがとうございます。さて、世界は現在、経済や社会のデジタル化や生成AI等のテクノロジーが驚異的に進展する一方、気候変動問題や脱炭素社会の推進、SDGs達成など大変動の真っ只中にあります。こうした激動の時代を切り開いていくのは今まさに社会へと飛び立つ皆さん自身です。皆さんが歩むこれからの道は、厳しい現実と向き合う、まさに自立へ

表します。

の道といえます。その過程で、参考にしていただきたいことを二点申し上げます。一点目は、「Resilience (レジリエンス)」を持って変化を受け入れ、チャレンジャーとして進んでほしいということ。レジリエンスとは、困難に立ち向かう力や難局を乗り越え新しい環境に適応する力のことを指します。ますます変化が激しくなるこれからの社会では、失敗や困難を恐れず挑戦していく姿勢がより大切になるでしょう。

二点目は、「Contribute to the Society」、社会に貢献する人材となってください。今世界では、地球

温暖化や自然破壊による異常気象、海面の上昇等各地で被害が拡大しています。これ以上自然環境の悪化が進まないよう、パリ協定やCOP28の宣言にある通り、我々の未来のためにも待ったなしの状況です。皆さんが、人類共通の課題に対し理解を深め、身の回りのできることから参画し貢献することが、サステナブル(持続可能)な社会の実現、SDGsの達成へと世界を導くこととなります。

今後、皆さんが、国内外でより良い社会を実現するために貢献する人材として活躍されますことを心より祈念いたします。

新しい旅に出発する皆さんへ

学長代理 高岸直樹



皆さん、ご卒業おめでとうございます。また、卒業生を見守られてきた保護者の皆様、卒業生を支えてこられた関係者の皆様、おめでとうございます。これから社会人として羽ばたく方、さらに学問を究める方、家業を

継ぐ方など、皆さんが進む道はさまざまですが、いずれにせよ新しい旅への出発です。

皆さんの学生生活は、パンデミックによる行動制限の影響を受け、二年間にわたりさまざまな制約を受けました。しかし、その間も皆さんは学びを続けました。制約が解かれた後は、再び、広い視野を持ち、自分の旅の目的地を模索したことでしょう。

なぜ人は学ぶのでしょうか。ヒトは経験に照らして判断し、行動する動物です。しかし、人が生まれてから成長するなかで、自分で経験できることは意外と少ないものです。皆さんそれぞれの経験と、人間に必要とされる経験のギャップを埋めるため、皆さんはこれまで学んできました。そんな皆さんに、二松学舎大学は、建学の精神を重んじ、各教員は最新の研究成果のもと、さまざまな学びを提供しました。皆さんが得た学び、学生生活を送るうえでの経験は、これからの新しい旅への糧となるはず。

新しい旅でも、日々、新しい出会

いがあり、新しい経験を得て、さらに成長していくことでしょう。時には暴風雨のなかを突き進み、針路を変えなければいけないことも起きるかもしれません。そのようなときでも、冷静に自分の旅を進めることができるよう、十分な学び、経験を積んだと信じています。

そして、いずれ皆さんも、経験を次世代に伝える立場になります。ぜひ人生という旅の経験を、二松学舎大学の後輩に伝えていただきたいと思えます。皆さんの新しい旅が、輝かしい旅となることを祈っています。

文学部の学生諸君

文学部長 江藤 茂博



学生諸君、ご卒業おめでとうございます。また、御父母並びに学生を支援されてきた方々にも、お喜びと感謝を申し上げます。これからは、大いに社会で活躍していただきたいと思えます。また、私たち教職員は、君たちの生きていく力を育てるために努力してきました。これから先のことは、ある程度予測できることもあるでしょうが、私たちの想像を超えることが起こるかもしれません。しかし、どんな場合でも、皆で社会をより良いものにしていかなければならないことは確かです。日本社会の人口減を嘆くのではなく、人口が少なくても快適な環境を生み出すアイデアが求められています。人の不正や不誠実を嘆くのでは

なく、恥を知り誠実な人たちが大きく育つ文化を作り上げていかなければなりません。

さて今年も、大きな地震災害から日本は始まりました。私も大きく揺れた場所において、人の知や治が及ばないことに、いわばあきらめのような空虚さを感じ取る日でした。それでも、ニュースなどで紹介されるように、人は力を合わせて、お互いに助け合い、さらにより良いものを目指そうとします。こうした私たちがよりよいものを目指す力こそが、私たち自身も元気に、力強くしてくれます。そして、時代は少しずつではありますが、より良いものに向かってい

きます。君たちの、より良きものとして正しきものへの一歩が、十年後の大きな明るさに結びつくでしょう。現代の社会環境の変化は、高等教育相当の情報がどこでも手に入るようになりました。それは、学び方というものを学んだ君たちにとって、整えられた膨大な情報に、いろんなかたちでアクセスし、多くのものを学び、そして考え、より良い社会を築くことができるということです。大きく羽ばたいてください。



卒業生の皆様

国際政治経済学部長 佐藤 晋



卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。卒業後の進む道は人それぞれですが、どのような仕事をするにせよ社会との関係で必ず重要となるポイントについて、今日はお伝えしたいと思えます。四年間の研鑽の結晶として、それぞれ次の新

たな道へと歩みを進められることかと思えます。

今の若者に限らず、自由主義社会で教育を受けてきた我々は、一般に「自由」と言えば何の束縛もなく誰からも強制もされない状態をイメージするかと思います。その反面、会社や組織に縛られ拘束されることが多いと「不自由」と感じるのではないのでしょうか。確かに英米型の社会では、豊富な選択肢が開かれていて

好きに選ぶことができるほど自由だと考えます。ところが、ドイツの社会学者であったラルフ・ダーレンドルフは、社会における「自由」の実現度の指標として「ライフ・チャンス・チャンスは、オプシオン（選択肢）とリガーチャー（帰属・絆）の二つの要素で構成されると言っています。つまり、単に選択肢がいくら豊富でも、その選択によって自らが帰属する場が生まれないと意味がないというわけです。

みなさんは、次々と転職を繰り返して、選択の権利を十分に行使しているものの周囲との安定した関係がなかなか築けない状態と、選択した先で周りからの信頼を得て自らの居場所を確保することができる状態、これらのどちらを重要視するでしょうか。どこにも正解はありませんが、私としては少なくとも最初の数年は、周りからの期待を理解し、それにいかに応えることができるかに集中して、組織内での評価を高めることで自分の居場所を確保し、安定した精神状態を築くことを優先されるのが良いと思えます。自らの実力と信用を上げれば、自ずとその後の選択肢も増えていくと思えます。

国文学科・中国文学科・都市文化デザイン学科・歴史文化学科・
教職課程の先生方から饒の言葉を頂きました。

生き延びて、**ギキ**の未来を見届けろ
誰も知らない**ギキ**の先の日々
(オオノともじ) 島田泰子

みなさんには

未来しかありません

未来へ

榎沢一平

初心忘るべからず

中所宜夫

好き勝手に生きてください。

中谷いずみ

自分を信じて

本音で生きよう

塩田今日子

つらしとて恨みかへすな我れ人に

報ひ報ひてはてしなき世を (日新公)

永井鉄郎

見ぬ世の人を

友とす

長島弘明

置かぬた場所ので咲きなさい。

(渡辺和子)

麻生将

それはもはや別の物語り、
新しい別の物語でなければ
ならない。」 (大西巨人) 神聖喜劇団

山口直孝

たまには、学校のこと

思い出してください。

荒井裕樹

菜根譚

小山聡子

笑門来福

中川桂

Life is beautiful.

Yumiko Masuda

境地をめぐると
居座(ちやう)動くしか
ないんです。(高史明)

林謙太郎

人生はこれからです。新しい
目標へ向け突き進んで下さい。

五月女肇志

一灯を提げて暗夜を行く。

暗夜を憂ふる勿れ。

只だ一灯を頼め。(佐藤一斎)

瀧田浩

積善余慶

ご活躍を心から応援させていただきます。

原由来恵

どんなときも

笑顔をお忘れず!!

大藏教義

Way to go!

白井雅考

文学部・教職課程

みなさんに
たくさんの幸せが訪れますように。

足立元

其实地上本没有路，走的人多了，
便成了路。——鲁迅「故郷」
伊藤晋太郎

楽しんでいきましよう。

小井井敏

君子は天職を奉ずる者なり。

町泉寿郎

どこかで、またお会いしましょう。

松本健太郎

汝の現今に播く種はやがて汝の収む
(ま)未来となって現れる(ま)——
——夏目漱石の言葉

関俊史

歳寒松柏

御活躍も祈念いたします。
矢持昌也

卒業おめでとうございます。
学実的な同志的共生世界から
契約的で制度的な世界に歩み出るわけ
ですが、同志的同好的な関係を
今後大切にして下さい。
小淵朝男

正義とは、
魂の美徳

牧角悦子

万里一空

堀野正人

好學近乎知

『禮記』中庸より
學問を好む者は、知徳をそなえている
状態に近いです。学ば続ける日々
を過ごしてください。
教職課程セミナー 北村康子

「言語は多くの道からできた迷路だ」
途方に暮れずに迷宮を楽もよう。
(『夢学探記』203)
和久希

ふみ出せば、その一歩が通となる
その一歩が通である(清沢哲夫、アントニオ橋本)
戸内俊介

歴史しよう

林英一

ハスガ来る前に

まわりをよく見ておこう
本森野 崇

たくまへの思い出を胸に、
新しい世界に羽ばたいて下さい。

仙石知子

明日は今日よりいい日になる。
い文、いい日にする「がんばり」

安田一夫



堀野正人

国際政治経済学部 国際政治経済学科・国際経営学科の先生方から 餞の言葉を頂きました。

ご卒業おめでとうございませう。皆様の活躍を心より祈っております。

飯田幸裕

ご卒業おめでとうございませう

ご卒業おめでとう

不確定世界の中心で

楽しく、楽しく
合えん様

ご卒業おめでとうございませう

岩田幸治

一歩一歩大切に歩んで下さい。

皆様の活躍をお祈りしております。

戸辺玲子

ご卒業おめでとうございませう。幸せだなと思えたこと一つひとつを大切に。

大塚敬子

楽しい2年間でした。

JINROU

いつでもお待ちしております。

白石まりも

ユーモア(笑)のセンスも磨きましょう！

押野 洋

偉大な人生を！！

中垣陽子

御卒業おめでとうございませう。みなさんの新しい人生の門出を心よりお慶び申し上げます。

金子智香

御卒業おめでとうございませう。

小具 龍史

御卒業おめでとうございませう。皆様のこれからを御活躍を

お祈りしております。

関沢修子

ご卒業おめでとうございませう。楽しむことを忘れずに頑張ってください。

須藤 和敬

山倉 愛

心身の健康第一にがんばってください。

つらくない人頼り。生きていく場所はいくらでもある。

卒業おめでとう。

阿部 和美

岩崎 愛一

ご卒業おめでとうございませう。

新しい生活もそのしんびくを。

御卒業おめでとうございませう。

小久保 敏哉

夢を抱いて着実に歩めば、

充実した人生がそこにきます。

ご活躍をお祈りいたします。

中山政義

ご卒業おめでとうございませう

山 邊 進

御卒業おめでとうございませう。

お幸せに

本多峰子

ご卒業おめでとうございませう。

菊地 宏樹

御卒業おめでとうございませう。

神原 海

ご卒業おめでとうございませう。いつでも、楽しく幸せにお過ごしください。



二〇二三年度 卒業式

二〇二四年三月二十日(水)文京シビックホールにおいて、二〇二三年度二松学舎大学学位記授与式(卒業式)が挙行されました。門出を祝うような晴天に恵まれたこの日、会場には多くの卒業生の笑顔が溢れました。

午前十一時、開式宣言に始まり、国家斉唱(清聴)、学務局長による学事報告に続いて、文学部卒業生に学士(文学)、国際政治経済学部卒業生に学士(国際政治経済)の学位記が授与されました。各学科それぞれの成績優秀者には、中洲賞として賞状と記念品が授与され、その後教育職員免許状が伝達されました。

続いて高岸直樹学長代理の告辞、在校生代表の送辞、卒業生代表の答辞と式は進行し、厳粛な空気のまま閉式しました。閉式後は会場内の数箇所に分散し、各学科の教員から学位記を受け取り、式典は終了となりました。式典後は、友人たちや先生方と談笑したり記念撮影をしたりと、学生最後の時間を楽しむ様子が見られました。

卒業生の皆さんがこの日の喜びを胸に、社会で活躍されることを心よりお祈りしております。



2023年度 卒業記念パーティー in帝国ホテル 孔雀東の間

2024年3月20日(水・祝)、午後3時より帝国ホテル「孔雀東の間」において、2023年度卒業記念パーティーが開催されました。パーティー会場ではゼミの先生を囲んでの写真撮影や友との語らいの楽しい時間が瞬く間に過ぎ、終了後は立ち去りがたく別れを惜しんでいる姿が見られました。



卒業にあたり、新しい人生への希望に満ちた門出に胸ふくらませている学生五名に、四年間学んだ学生生活を振り返り、現在の心境及び感想等を語っていただきました。

『桜の季節を迎えて』



国文学科

倉井宏夏

大学生生活は瞬く間に過ぎ去り、寂しさを感ずつつも、前途洋々たる門出を誇らしく思います。

振り返れば、私たちの大学生生活の始まりはコロナ禍にあり、一年次は登校すらままならない状況でした。

たくさんの学生が集い、一つの空間で講義に参加することができるようになった時、初めて「大学生らしさ」を実感したような気がします。

満開に咲く桜が美しい千鳥ヶ淵や黄金色の銀杏が迎える靖国神社、さまざまな人が行き交う日本武道館を横目に歩く通学時間も、友人や先生方、職員の方々と何気なく語り合った温かい時間も、どれも当たり前の

ことではありませんでした。だからこそ、二松学舎大学生として経験した一つひとつの出来事が、私の人生のページとして深く心に刻まれていくのだろうと思うと、過ごした日々の大切さを改めて感じます。日本語学を専攻し、日本語と向き合った大学生活において、私が一番感じていることは、日本語を追究することのおもしろさです。私たちは生まれた時から毎日、家族や友人との会話、テレビや広告、看板、書物、SNSなどさまざまな場面で当たり前に日本語と接しています。しかし、私たちの日本語は掘り下げれば掘り下げるほど奥の深い

言語だったのです。

先に、私の大学生生活の記憶に強く印象づけられている情景の一つを「満開に咲く桜が美しい千鳥ヶ淵」と表現しましたが、桜が満開に咲く様子は「桜花爛漫」、「花盛り」という言葉で表現することも可能です。また咲いて間もない桜を「初桜」、

咲き満ちて散っていく桜を「零れ桜」、その舞い散っている様子を「桜吹雪」などと表現することもできます。さらに浄土真宗の開祖・親鸞は、「桜」をモチーフにこんな和歌を詠んでいます。

明日ありと 思う心の あだ桜

夜半に嵐の 吹かぬものは

「明日もまだ咲いていると思って安心して見ている桜も、夜中に嵐が来て散ってしまうかもしれない」

「あだ桜」とは、儂く散ってゆく桜を表し、転じて儂いものたどえとしても使われるそうです。「桜」一つを取っても、その様子や状況に応じてさまざまな表現が存在していることが分かります。日本語には、自分が感じていることを感じるままに表現するための言葉が数えきれないほど多く存在しているのです。

このことを理解した時、私は日本語を巧みに使いこなせるようになりたい！という欲求に駆られるようになりました。

今の私もまだまだ十分に日本語を使いこなせてはいませんが、美しい言葉に出会う度に日本語のすばらしさを感じながら、底の知れない日本語の奥深さを改めて痛感するのです。言葉、とりわけ日本語が私たちにとつて必要不可欠なものである中で、自分自身が使う言葉、選ぶ表現は、自分の品性として表れるものだと私は考えています。言葉を磨くことを通して品性を磨き、人間性を高め豊かにすることが、日本語のおもしろさに魅せられた私の目指すべきゴールなのだと思います。

最後になりますが、ゼミナール指導教員である迫田幸栄先生をはじめとする諸先生方、大学生生活を常に支えてくださった職員の皆様、共に高め合い、笑い合った友人たち、私たちの大学生活に関わるすべての方々に感謝申し上げます。この度晴れて卒業を迎えますが、いつの日かまた二松学舎大学を訪れ、大学最上階のレストランで桜を見ながら食事を楽しみ、大学生生活の思い出に浸りたいと思います。

『最善を尽くす』



中国文学科

北川 絵 万

四年前、広島駅のホームで両親と別れ、誰もいない新幹線の車内で京都あたりまで泣き続けながら上京してきたことを今でも覚えています。

私が大学に入学した二〇二〇年は新型コロナウイルスの影響を大きく受け、入試以来一度も大学に通えていませんでした。友達ができない、課題や履修登録について相談できる人がいないという状況が続きました。しかし私には目標がありました。交換留学制度を利用して韓国に留学するというものです。この目標は、不安な日々を送っていたいながらもそれでも最善を尽くそうと思える原動力になりました。一度は不合格を言い渡された留学制度ですが、諦めることなく再挑戦し、二年生の時に合格をいただきました。

大学三年時の約一年間の留学生活は充実しており、韓国語を思う存分学べる環境は幸せなものでした。語学研修だけでなく正規授業も受講したのですが、これまで培ってきた語学力で新たなことを学ぶことは難しくもありましたが楽しい過程でした。また学業のみならず、留学中には積極的にアクションを起こしていききました。様々な活動に参加し、国籍や年齢関係なく多くの人と出会い親睦を深めることが出来ました。このように実り多い一年を過ごせたのは、留学の準備からサポートしてくださった国際交流センターの皆様のおかげです。海外での学びを温かく見守ってくださいありがとうございます。

帰国後には本格的に卒業制作に取り掛かりました。私は本を一冊韓国語訳したのですが、特に苦労したのは日本語表現でした。日本語母語話者であるのに日本語が不自然になるという現象は、外国語を長く学習してきた人なら共感してくれるはずだと思います。ある時には韓国語の方が楽だと思えるほどに成長できた私は、自然な日本語表現を探し求め苦心していました。このような時、同じゼミナールの学友たちから貰えた的確なアドバイスは、翻訳作品をより良いものにするのに大きな助けになりました。

このように大学生活を振り返り、私が得たものといえば、最善を尽くすことのできる自分への自信です。もちろん努力が実らないこともありましたが、挑戦が失敗に終わることもありませんでした。しかしどんな結果でもありました。しかしどんな結果でもあれ、最善を尽くしたということは確固たる事実であり、その努力の先にはいつも学びがありました。諦めなくなる瞬間にも、自分が出来る最大限の努力はしようという意識を忘れず四年間を過ごすことが出来ました。どんな時でも自らを奮い立たせ、最善を尽くすことのできる自分に対する自信は、これからの私の人生の糧になるでしょう。

さて、私はこの度二松学舎大学を卒業するにあたり中洲賞をいただくことになりました。このような名誉ある賞をいただくことが出来たのは、私の学びをそばで手助けしてくださる方々がいたからです。大学生活を送る中で特別にお世話になったのは、塩田ゼミナールの指導教員である塩田今日子先生です。塩田先生が常におっしゃっていたのは、あなたがやりたいことをやりなさい、ということでした。私にはまだ確約された将来はありませんが、塩田先生からいただいたこのメッセージは、これからの人生の道標になるでしょう。塩田先生をはじめ、多くの機会を与えてくださり指導してくださった先生方、そして充実した学生生活を送れるよう尽力してくださった大学関係者の皆様には本当に感謝しています。

最後に、学費、生活費だけでなく交換留学時にも支援してくれた両親。私が健康で元気に過ごせることを第一に考えてくれた祖母。悩み事を相談するたび現実的な助言をくれた姉。(そして筋肉馬鹿な弟。)大学生活における哀歓を共有でき、常に私の見方になってくれた家族の存在ほど心強いものはありません。これからも最善を尽くしていきますので、応援しててください。

『ダイヤモンドリリー』



都市文化デザイン学科

高田 真由

二松学舎大学に入学し瞬く間に四年が経ち、無事に卒業の日を迎えられたことを嬉しく思います。入学当初から新型コロナウイルスにより通学が出来ず、大学生の実感がなかった当時を思い返すと、遠い昔のような気もして本当にあつという間の大学生生活でしたが、私が大学生になって実感したことは、「人に恵まれている」ということです。

高校三年生の頃、進路が決まらず悩んでいた時に担任の先生から本学を勧められました。大雑把ではあるものの「メディア関係を学びたい」という気持ちで受験をしたわけですが、その先生から話を聞かなければ今の私はいないと思っています。一、二年生の頃はオンライン授業でしたが、三年生になり通学出来るよ

うになって大学で出会った都市文の友人たちと過ごす時間は、ようやく大学生らしい生活を味わえ、とても楽しい時間でした。初めこそ名前を聞いて「オンラインで名前見たことあります」「Twitterにいますよね」というような本来であれば体験できないようなスタートとなりましたが、それもまた今となっては貴重な思い出です。何よりこの学科の人たちは同じような趣味を持っていて、各趣味に応じたイベントの企画やお互いに好きなアニメの話をするなど私にとつても居心地の良い空間でした。それぞれの分野に高い関心を持った人達がいいて、それを共有するということはなかなか出来るものではないと思います。だからこそ、自分の好きな物の世界だけで生きて

いたらきつと触れなかったであろう作品や文化にも触れることができ、自分の知らない世界を知ることが面白いと実感しました。都市文は人数が少ない分、交流がしやすかったのでも濃いつき合いが出来たのではないかと思います。よく皆で「コロナじゃなければ」と話をしますが、それでもこの二年沢山の人と話せて、遊びに行けて本当に楽しく充実した日々でした。

アルバイトで言えばプロ野球球団での事務仕事を三年間行い、沢山の大人の方々とお話をさせて頂く機会もありました。このアルバイト自体、同じ球団のインターンシップから縁あつて、社員の方から声をかけて頂き始めることとなったのですが、「働くということ」「考えて動くこと」「コミュニケーションの取り方」を特に考えさせられました。同年代がほとんどいない中でアルバイトだったので、経験豊かである目上の方々との会話は非常に勉強になり、人との関わり方もそうですが、仕事に対しても貴重な経験をさせて頂きました。

そして、最後に何より感謝してもしきれないのは家族の存在です。大学やアルバイトなどあらゆる面でわ

がままを言ったにも拘わらずいつも支えてくれてありがとうございました。家族の支えがなければもちろん今の私はいないですし、こんなに楽しく充実した日々を過ごすことは出来ていないと思います。また、NSC奨学金やこの度の名誉ある中洲賞等、有難いことに大学生活の間で沢山の評価をして頂き、その際にもとても喜んでくれて私自身も非常に嬉しく、まだまだ返し足りないですが少しは親孝行が出来たのかなと感じています。これからも沢山の迷惑をかけてしまいかもしれませんが、それよりも多くの恩返しが出来るとして成長していきたいです。

こうして四年間を振り返ると、私の日々は周囲の人たちのおかげで本当に充実していました。入学当初はオンラインで不安しかったのですが、家族の支えや友人との出会い、アルバイト先での経験などを通して改めて「幸せな時間を過ごすことが出来た」と胸を張って言うことが出来ます。これまで関わってくださった全ての方々に感謝申し上げますとともに大学の友人たちとまた会える日を楽しみにしております。

『成長と感謝』



国際政治経済学科

千種 宏 大

このたび、無事卒業を迎えることができ、関わってくださった多くの方々に感謝申し上げます。寄稿させていただくにあたり、大学生活を振り返ると、コロナウイルスに大きく影響を受けた日々でした。それと同時に、自己成長と人との繋がりがやがたり前の日常の大切さを実感した四年間でした。

入学と同時に導入されたオンライン授業により、一人でパソコンに向かい授業を受け、毎日課題の文章を作成し、孤独や今後への不安を感じていたことを今でも覚えています。大学に通えなかった二年間で、誰が見ても分かり易く論理的なレポートになるように、何十回と読み直し課題に取り組みました。その結果、これまで苦手だった文章能力を成長さ

せられたと感じる日々でした。また、四年間で政治・経済・法律・国際的知識と専攻以外の幅広い科目を学習することができ、新しい考え方や各ジャンルに重なる部分があることなど、これまで知りえなかった複合的な知識を広げることが出来ました。また、会ったことのない同級生とのグループワークでは、限られた時間の中で意見を出し合い、グループの答えを出すなど、就職活動に繋がる部分が多くあり、コロナ禍により自己成長をすることが出来たと感じる二年間でした。

大学へ直接足を運んで授業を受けることが出来たのは、三年生からでした。率直に、もつと大学に通い、まだ使った事の無い教室で友人達と授業を受けたいと思うほど、大学で

出会った友人や先生方に恵まれていたと感じます。大学生活は、時に困難な状況に直面することもありました。そんな時、ゼミで知り合った友人に支えられ、共に壁を乗り越えてきました。友人との思い出を振り返ると、日々の雑談や行きつけのご飯屋さんなど、沢山の思い出を今でも鮮明に覚えています。特に、ゼミ合宿でのチーム対抗発表会や買い出しは、どれも普段あまり経験することのない体験で、絆を深めた大学生活の思い出です。私はそんな友人達のおかげで、コロナの影響により体験できないと思っていた私の思い出いた大学生活を二年間に凝縮し体験することが出来ました。大学生活を通し、尊敬できるかけがえのない友人達に出会えたことに感謝しています。それと同時に、人との繋がりがや実際に対面で表情を見ながら同じ経験を共有出来る日常の大切さを実感した二年間でもありました。さらに、担当してくださった全ての先生方にも感謝の気持ちでいっぱいです。どの先生方も熱心に優しく丁寧に指導してくださり、わからない所は細部まで丁寧に指導してくださいました。

そして、一番感謝の気持ちを伝えたい方々は、家族です。コロナ禍で

の不安や学業の壁などいつも困難にあった際に、精神的に支えてくれた両親がいたからこそ、今回中洲賞を受賞することが出来ました。大学に通わせてくれた父。いつも相談に乗ってくれ、サポートし続けてくれた母。本当にありがとう。そして、いつも些細なことでも私以上に喜んでくれ、応援をしてくれた祖母。祖母は今年に入りコロナウイルスにより亡くなってしまい、感謝の気持ちを伝えることは出来ませんでした。きつと誰よりも喜んでくれていたと思います。私をここまで応援し支え育ててくれたかけがえのない家族に感謝しています。そして、この場を借りてコロナ禍に影響を受け続けた四年間でしたが、有意義な大学生活でしたと感謝の思いを伝えたいです。

最後に、大学生活の思い出や学んだことは書ききれないほどありますが、常に人や環境に恵まれていたと改めて感じました。これから社会人として生きていく上で、困難や挫折に直面した際に、大学生活で培ってきた経験や学びを活かし、一歩ずつ前進し全力で過ごしていきたいと思っています。

『自分にとっての「充実」』



国際経営学科

金子希実

と、グループのメンバーの中で役割を分担して課題に取り組んだことは、大変ではありましたが、自分自身の活動に対する積極性を成長させてくれました。

また、ゼミやその他の授業でWordやPowerPointを使う機会が多くあったことから、パソコンスキルについての勉強に取り組み、MOSの資格を取得しました。資格取得後には、授業や内定先の研修でグループワークを行ったときに活用することができ、勉強してよかったなど実感しています。

勉強と同様に、アルバイトや遊びにも全力で向き合いました。「アルバイト」では、接客業に就き、いろんな人とコミュニケーションを取る経験を積むことができました。特に、オンライン授業の期間は、同級生とコミュニケーションを取る機会がほとんどなかったため、アルバイト先の環境は、先輩に大学生活について聞くことができたり、同級生と話せたりと、貴重な時間でした。

「遊び」では、自分の趣味に時間を費やしました。趣味は、マイナスイオンに對して向き合う力をくれる、日々のモチベーションになっただけで、何より楽しさを与えてくれるものです。大学生として勉強に励む

はもちろん大切なことですが、アルバイトで稼いだお金と、社会人より自由に時間が使える今の時期に、妥協せずに「遊び」を楽しむことも大切だと実感しています。

いざ、大学生活を振り返ってみると、日々忙しくしているながらも、物事に取り組みることに対して「充実」感を得ていることに気づきました。目の前にあることに向き合い、物事を成し遂げることを繰り返すことが自分に合っていて、それが今はまだわからない自分の理想に近づく手段であるのではないかと感じています。ありきたりな大学生活かもしれませんが、私にとっては、新しいことへの挑戦や、やりたいことに時間を費やすことは、充実した四年間を形成するのに重要な要素でした。

最後になりますが、この度、中洲賞という名誉ある賞を頂けたこと、大変光栄に感じています。これも、先生や友人、家族など周りの人の支えがあつてこそその結果であり、感謝の気持ちでいっぱいです。これからも、自分なりの「充実」を求めて、日々様々なことに取り組んでいきたいと思えます。

私たち二十四年卒の学生は二〇二〇年に大学に入学、つまり、コロナ禍に大学生活がスタートしました。約二年間オンラインで授業を受け、同級生と一緒にキャンパスで授業を受けることができたのは、三年生の時でした。キャンパスに通った期間が短かったこともあり、振り返ると四年間の大学生活は、あつという間に過ぎた気がします。そんな四年間の私の大学生活は、「授業」「アルバイト」「遊び」の繰り返しであり、所謂、皆さんがイメージするような大学生活を送っていました。

まず、「授業」において、特にゼミ活動に力を入れました。実務経験のある小具龍史先生のゼミに所属し、グループワークやプレゼンテーションを中心として、マーケティング

グについての学びを深めました。実務家の先生による専門的な視点からの指導では、使える知識をご享受していただきました。そして、インプットとアウトプットを繰り返し行い、その知識を身に付けられる環境にあつたと思います。三年次に取り組んだ産学連携プロジェクトでは、企業の方からの課題に対し、マーケティングのサーチャー会社の方からの指導と、ゼミで学んできたマーケティングの知識を応用して、グループで課題解決に尽力しました。マーケティング施策に必要な調査・分析・提案までを学生主体で行えたことは、貴重な経験だと感じています。そして、グループワークに苦手意識があつた自分にとって、授業外で話し合う時間を設け意見交換をしたこ

●卒業おめでとうメッセージ！

三月二〇日に卒業を迎えられたご父母の皆様、心よりお祝い申し上げます。おめでとございませう。

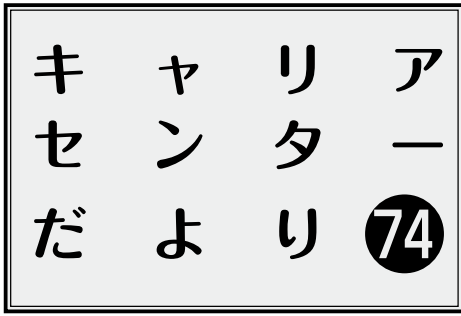
本年も約七百名の学生の皆様、本学を巣立っていきました。

例えば、本年卒業の皆様は、入学しても、新型コロナウイルス禍真只中で登校することもかなわず、授業も課外活動も約二年間にわたってオンラインで実施、その他の活動も全て制限されていきました。先生にも学友にも、初めて実際に対面したのが入学して二年後になりました。教室で授業を受けられるようになって、これまでPCやスマートフォンでの画面越しで会っていた印象とは随分違う、面白いね、と言う話を聞きました。

三年次になり、最初のキャリアセンターガイダンス後に、ある学生が窓口で呟きました。「ようやく本場に大学生になれたのに、もう就職活動を考えなければいけない。」心がキュッとなる一言でした。

新型コロナウイルス禍によって、我々の生活は大きく変化しました。学生生活も同様です。大学一・二年次で経験出来たこと、或いは経験しなければならなかったことが、殆ど出来ずに三年次に進級することにになりました。

キャリア形成は、自分が定めた目標に向かって、計画を立てて経験し、思考し、次の行動に活かすことを繰り返して、積み上げていくことが肝要と言われています。大学教育や大学生生活には、実はそうしたことを自然に意識し、実行できるような所謂「トリガ



ー」がいたるところに配置されるように凶られています。それが阻害されたことは、気の毒以外の何物でもありません。もちろん、これは本学学生のみならず、全国の同学年の学生の殆どが同様な状況であり、広く捉えれば、若者全体が一様に被った大きな不利益と言えます。

しかしながら、本学学生は遅しかったと思えます。閉じ込められた二年間を取り戻すかのように、この二年間で様々な活動を行っておりました。まだ残る制約の中で、学園祭やゼミナールを運営したり、千代田区のボランティアに参加したり。今、自分に何が出来たのかを問いながら、学生の一人一人が、それぞれ経験を積み重ねていきました。

キャリアセンターで把握している限りでは、特にインターシップに積極的に応募・参加しておりました。本学の場合、五日間程度の就業体験を伴うインターシップに参加しても、単位を付与することはありません。それにも拘らず、大企業のインターシップに応募し、選考を経て業務に従事しようとする学生が多数見受けられました。

今回は疫病による厄災でした。毎年のように発生する大規模な自然災害もあります。海外に目を向ければ、戦災も起きています。その度に、我々は大きく傷つき、変化に追われることになりましたが、若者たちは意外とタフな方も見られます。旅立つタフな彼らにエールを。そしてその先に幸多からんことをお祈り申し上げます。

「余裕がないんです」相談室でそんな言葉をよく聴きます。なぜ自分は、いつも余裕が持てないんだらう？そんな悩みを抱える学生はかなり多いようです。カウンセラーは、こんなことを確認します。「それで、もともと目標は達成できたの？」と。余裕がない、と嘆きながらも、よく聞いてみると、もともと立っていた目標を、結果的にはどうにか達成できていることもありました。ただ「余裕がなかった」だけなのです。大学生の一大関門である、定期試験・レポートなどを、どうにかなし、結果的に単位を取得出来ていても、「余裕がない」と悩む学生は少なくありません。



なんていう場合もあります。これから取り返せる可能性も十二分でしょう。もちろん、軒並み単位取得出来ない、というパターンもあります。そうした場合は、詰め込み過ぎない履修をする必要があるかもしれません。余裕を持つことではなく、少しでも現実的な成果を残せる状況を作ってみる、という方向性です。余裕がある／ない」と

いうのは、究極的に言えば、それぞれの胸の内にある思いに過ぎません。本当に出来ているのか、いないのか、そのタスクが自分にあっているのかいないのか、落ち着いて現実を判断することが、遠回りのように見えて近道なのです。学生相談室のカウンセラーは、学生に寄り添いながらも冷静に判断できる存在として、それぞれの判断をお手伝い出来るのではないかと考えています。余裕を持ってなくてもどうにかなる、そう考えられたら、少しだけ余裕が出てきませんか？

「余裕がない」と悩む学生は少なくありません。どうにか課題をこなせている、という現実と「余裕を持って課題が出来ない」という自分の中の思いが、少しズレてしまっている状態です。余裕がなくても、どうにかやれた、その現実を目を向けると、少し気持ちが楽になるかもしれません。その単位だけは落としてしまったが、他の授業は無事に単位取得できている、

2024年度二松学舎大学日程表

年	月	日	月	日	日	程	
2024年	3	25	~	4	9	ガイダンス期間	
	4	8				入学式	
	4	10				春学期授業開始	
	4	30	~	5	2	全学休講	
	6	8				父母会定期総会	
	6	15	~	6	16	POP (学園祭)	
	6	27				春学期授業料納入期日	
	7	15				(海の日) : 授業実施	
	7	17	~	8	6	試験期間 (定期試験期間を含み18日間)	
	7	30				授業期間終了	
	8	7	~	9	11	夏期休業期間 (36日間)	
	8	19	~	8	20	追試験(20日は予備日)	
	9	12				秋学期授業開始	
	9	16		9	23	(敬老の日)(秋分の日) : 授業実施	
9	28				春学期学位記授与式		
2024年	10	10				創立記念日 : 全学休講	
	11	2				学園祭準備 (休講)	
	11	3	~	11	4	学園祭	
	11	23				(勤労感謝の日) : 授業実施	
	11	27				秋学期授業料納入期日	
	12/13・18~24 及び1/9~25					試験期間 (定期試験期間を含み18日間)	
	12	25				全学休講	
	12	26	~	1	7	冬期休業期間 (13日間)	
	2025年	1	9				授業再開
		1	18	~	1	19	大学入学共通テスト (16日・17日・18日休講)
1		15				授業期間終了	
2		12	~	2	13	追試験(13日は予備日)	
3		上旬				卒業生発表	
3		上旬				進級者発表	
3		17				学位記授与式 (卒業式)	

2023年度 学生褒賞

区分	氏名	主催	大会名	受賞内容
個人	猪野 修都	音・音楽フォーラム松戸	第6回 総の国 童謡作詞・作曲コンクール	優秀賞
	工藤 剛	株式会社staygold 千代田区	スポGOMI 第57回千代田区将棋大会二部	優勝 敢闘賞
	小野寺 健	全日本漢詩連盟	令和四年度 全日本漢詩大会 全日本漢詩連盟設立二十周年記念大会	U23奨励賞最優秀賞
	坂口 夢依	葛飾区柴又帝釈天全国書道コンクール実行委員会	葛飾柴又帝釈天全国書道コンクール	柴又帝釈天賞
	中村 太一	公益社団法人 全日本書道教育協会	第107回書教展	文部科学大臣賞
	戸梶 美雪	the 48 Hour Film Project	The TOKYO 48 Hour Film Project 2023	最優秀助演女優賞
	碓井 粹矢	東都大学軟式野球連盟	東都大学軟式野球連盟秋季リーグ戦	ベストナイン 遊撃手
	千葉 倫代	全日本かるた協会	新春全国かるた大会E級大会	準優勝
	濱谷 皇輝	東都大学軟式野球連盟	令和五年度東都大学軟式野球春季リーグ戦	本塁打王
		東都大学軟式野球連盟	令和五年度東都大学軟式野球春季リーグ戦	打点王
		東都大学軟式野球連盟	令和五年度東都大学軟式野球秋季リーグ戦	優秀選手賞
		東都大学軟式野球連盟	令和五年度東都大学軟式野球秋季リーグ戦	ベストナイン 外野手
		東都大学軟式野球連盟	令和五年度東都大学軟式野球秋季リーグ戦	最多奪三振
	福原 将気	東都大学軟式野球連盟	令和五年度東都大学軟式野球春季リーグ戦	敢闘賞
	小川 春希	日本書芸院	第28回全日本高校・大学生書道展	準優秀賞
		全日本書道教育協会	第107回書教展	中国大使館賞
	五味 柚葉	葛飾柴又帝釈天全国書道コンクール実行委員会	第9回葛飾柴又帝釈天全国書道コンクール	読売新聞社賞
		全日本書道教育協会	第107回書教展	審査委員長賞
	佐伯まりな	公益社団法人全日本書道教育協会	第107回書教展	中国大使館賞
	竹谷 宇広	杉並かるた会	第二十一回百人一首競技かるた杉並大会	3位入賞
	渡邊 歩美	東京都かるた協会	第三十回東京都かるた大会	E級 優勝
		全国大学かるた連盟	第十三回天ノ三笠初心者大会	準優勝
	君塚 風桜	新潟県かるた協会	第5回全国競技かるた新潟大会	第3位
岡本 桂悟	東京大学かるた会 公認 全日本かるた協会	東京大学かるた会創立四十周年記念全国大会	D級 優勝	
	秋田県かるた協会 公認 全日本かるた協会	第六回全国競技かるた秋田大会	E級の部 優勝	
	全国大学かるた連盟	第十三回天ノ三笠初心者大会	優勝	
団体	書道部	全日本書道教育協会	第107回書教展	団体奨励賞

課外活動団体助成

	団体名	内容
1	書道部	2023年度二松学舎大学書道部学外展 会場借用費助成
2	書道部	2022年度二松学舎大学書道部書作展 ポスター等印刷費助成
3	狂言研究会	第44回自演会 ポスター等印刷費助成

お知らせ

二〇二四年度
父母会定期総会について

左記の日程により、二〇二四年度二松学舎大学父母会定期総会を開催いたします。

日時・二〇二四年六月八日(土)

場所・二松学舎大学九段キャンパス
一号館

内容・二〇二三年度事業報告並びに

決算

・二〇二四年度事業計画並びに

予算 等

新二年次生、新四年次生の会員の皆様には、二〇二四年度定期総会のご案内と出欠票(委任状)をこの父母会報第一二四号に同封しておりますので、ご確認願います。

また、準備の都合上、ご出欠を同封の出欠票(委任状)で五月十日(金)までにお知らせください。

定期総会資料につきましては、五月中旬頃に郵送にてお届けします。



2024年度 父母会役員募集のご案内

二松学舎大学父母会では、次年度役員候補者を募集しています。

父母会役員会では「役員相互が無理のない範囲内で活動すること」をモットーに会の運営を行っており、一緒に活動できる仲間をお待ちしています。

【父母会役員】 各学年4名の16名と大学の学務局長の計17名
事務局として学生支援課より職員2名

【任期】 1年(6月～翌年5月定期総会まで)。ほとんどの方が4年間再任されています
任期はご家庭や勤務先のご事情を考慮いたします

【役員会】 月1回程度の開催(8月と2月は除きます)原則、土曜日14:00開催(約2時間程度を予定)

【活動内容】

- ・役員会開催
- ・父母会会報(編集後記担当)
- ・定期総会開催
- ・父母会懇親会開催
- ・創縁祭での「父母会無料喫茶室」運営
- ・卒業記念パーティー実施(学位記授与式終了後)
- ・留学生との国際交流会参加

【その他】 ・交通費支給

【応募方法】 ご興味のある方、詳しい話を聞いてみたい方は、2024年6月8日(土)九段キャンパスで開催予定の2024年度定期総会の終了後、皆様と役員がお話しできる時間を設けておりますので、お気軽にお声かけ下さい。

編集後記

四年生の皆様、保護者の皆様、二松学舎大学ご卒業誠におめでとうございます。

コロナ禍での入学に始まり、オンライン学習等対面での活動が制約される中、教職員の皆様と共に工夫され乗り越えられた学生の皆様と支えられたご家族の皆様には、感慨もひとしおのことと拝察いたします。これ迄の経験が存分に活かされ、これからの人生が更に充実したものとなりますよう皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

父母会でも四年ぶりに卒業記念パーティーを開催することができ、この晴れやかな一日のお手伝いできましたこと嬉しく存じます。

元日に発生した能登半島地震の被害の甚大さと今なお不便な生活を強いられている方々がいらつしやることに胸が詰まる思いです。ご実家が該当地域にある学生も把握されており、お見舞い申し上げます。心穏やかに過ごせる日々が一日も早く訪れますよう祈念いたします。

二松学舎大学では災害時の安否確認システムを導入していますが登録者は約半数のことです。学生の皆様には是非とも登録を、保護者の皆様からもお声かけいただけたらと存じます。

二〇二四年度もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。